ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
M211L101		解剖学 (Human Anatomy)					心身の機構									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	1	医学部看護学 科	前期	火2,火3	日本語	英語	複数(共同)								
担当 教員	氏名 井上 亮 他 E-mail ryo@oita-u.ac.jp 内線 5051															
授業 の 概 要	看護を实践するには、人間の生活行動を支えるからだの構造・機能について、生命活動との繋がりの中で理解する必要がある。本科目は、生活行動を支えるからだの仕組みと機能に関する知識の修得、生活行動と生命活動との繋がりに関する知識の修得、疾病や障害、加齢による生命活動への影響・変化を看護の視点で捉える、の3点をねらいとする。本科目及び解剖学実習は、看護に活かせる人間の生命活動に関する知識体系を学ぶ科目として位置づけ、本科目では人間の生命活動に関する知識体系の総論として、ホメオスタシス・構成する(細胞)・保護する(外皮系)・流通機構(心血管系)、及び解剖学実習へつなげる調節機構(感覚器系・神経系・内分泌系)の概要について学修する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ホメオスタシスを構成する重要な要素について説明できる															
目標2	細胞の代謝活動について、細胞の構造と機能・細胞膜での物質の移動・ホメオスタシスとの関連で説明できる															
目標3	からだの内と外とを隔てる皮膚の構造と機能を説明できる															
目標4	心臓・血液・血管の構造と機能および中枢神経と連動した流通機構(循環)のシステムについて説明できる															
目標5	外界や体内からの情報を中枢が処理し、指令を発することでコントロールされる生命活動の仕組みについて理解できる															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							6		2					2		
授業の内容																
1	オリエンテーション 生命活動を支える生活行動															
2	ホメオスタシス ホメオスタシス															
3	ホメオスタシス ホメオスタシス															
4	ホメオスタシス ホメオスタシス															
5	ホメオスタシス ホメオスタシス															
6	構成する 細胞、組織															
7	構成する 細胞、組織															
8	構成する 細胞、組織															
9	保護する 皮膚															
10	流通機構 調整機構(概要) 心臓・血管系・血液・免疫 神経系・感覚器系・内分泌系の概要															
11	流通機構 調整機構(概要) 心臓・血管系・血液・免疫 神経系・感覚器系・内分泌系の概要															
12	流通機構 調整機構(概要) 心臓・血管系・血液・免疫 神経系・感覚器系・内分泌系の概要															
13	流通機構 調整機構(概要) 心臓・血管系・血液・免疫 神経系・感覚器系・内分泌系の概要															
14	流通機構 調整機構(概要) 心臓・血管系・血液・免疫 神経系・感覚器系・内分泌系の概要															
15	流通機構 調整機構(概要) 心臓・血管系・血液・免疫 神経系・感覚器系・内分泌系の概要															
ラ イ ク ニ テ ン グ フ	A:知識の定着・確認	日々の課題学修、単元毎の小テスト、ポートフォリオ作成				工 夫 の 他 の	LMS、動画 *Moodleを活用									
B:意見の表現・交換	発問、バズセッション、学修ルーブリックによるピアビュー															
C:応用志向	Medical Focusを用いた知識の医療への応用、課題レポート															
D:知識の活用・創造	看護との関連を認識するためのケーススタディを用いた調べ学習															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布授業資料・教科書の確認、動画視聴(毎回1h:計15h)、日々の課題の調べ学習(毎回0.5h:計7.5h)														
	事後学修	授業内容を整理しポートフォリオとしてまとめる(毎回1h:計15h)、単元ごと的小テストの見直し(計5h)														
	想定時間合計	43														
教科書	坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀:系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 第11版(2022)、医学書院 Martini,F. et al.(著)、井上貴央(監訳):カラー人体解剖学—構造と機能:ミクロからマクロまで(2012)、西村書店 清村紀子他編(2014):機能障害からみたからだのメカニズム、医学書院															
参考書	清村紀子他編(2014):根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント、医学書院 その他は、開講時に提示															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	100%									
注意事項	・ Moodleに一括配信した講義資料・教科書を用いて必ず予習し、主体的・積極的に授業に臨むことを期待する。											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解剖学と解剖学実習は連動して展開するので、人体解剖見学実習（予定）には必ず参加すること ・ 看護学科、先進医療科学科と合同開講とする ・ 担当教員変更に伴い講義内容は大幅に変更される予定ですので、事前に内容はあらためて周知します。 											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	井上、その他先進医療科学科と看護学科の医系教員：臨床実績のある医師											
実務経験を いかした教 育内容	ヒトのからだの構造と機能に関する知識を具体的に解説する。											